

先日、校舎内をふらふら歩き回り、理科室ののぞいてみたら、「反射速度」の授業をしていた。剣道は、この「反射速度」を高め、「体幹」と様々な「筋力」を使って、相手に一撃を加える。一瞬でも気を抜いたら、打たれる。逆にその一瞬の間隙をついて相手に飛び込む▼今日は剣道。道着に身を包んだ姿が、凛々しい。胴と面を付けると顔も分からなくなってしまう。垂名札と左肩の刺繍、背中につけられたタスキで識別する▼剣道の試合はめったに見ることはないかもしれないが、幕末のドラマや小説なら剣術、警察小説やドラマなら剣道。道具も目的も異なるが、通ずるものはある。「赤胴鈴之助」はあまり覚えがないし、「燃えよ剣」は名作だと思う。漫画「六三四の剣」はどう完結したのか思い出せない▼試合にもどろう。正直、審判の旗が上がるまで、勝負がわからない。動作が早すぎて竹刀の先端が見えない。まさに一瞬で勝敗を決する。剣道には、「間合い」というのがとても重要だと聞いたことがあるが、「間合い」というのは、相手との間に勝手にできるものだと思っていたが、自分が相手との間に作るものらしい▼子どもたちの勇姿、勇敢で堂々とした姿が、とにかく素敵だった。勝敗よりも相手と一戦交えたと一連の事実に関心された。「礼に始まり礼に終わる」「心技体一致」と言われる剣道観。若輩ながら、少しだけ、感じた気がする。